



株式会社バイキューポ  
代表取締役会長 グループCEO

間下直晃氏が起業したのは、インターネットの黎明期であった大学3年の時のこと。ホームページ作成の依頼を受けたことがきっかけとなり、Webシステムや携帯電話のアプリケーション等の開発を委託で始めた。以来、「リアルの世界をサポートしていくツールをつくっていきたい」という考えの下、取り組んできた。そして現在は「リアルとデジタルのハイブリッドの組み合わせが大事だ」と語る。かねてよりリアルを重視してきた間下氏。先輩たちの考え方を聞くことも大切に、海外ではよく動き、さまざまな視点を持つため、インプットを心掛けていく。そもそも間下氏率いるバイキューポは、自分たちの不便を解消するべく多くの開発を成し遂げてきた。より豊かな人間社会の実現を目指して、今後どのような新しい価値創造を続けていくのか。間下氏の動きから目が離せない。

# 間下直晃

## すべてが〴〵組み合わせ〴〵

### 新しい価値の創造を通じて ハイブリッドの世界をサポートし、 社会に貢献する

コロナ禍をきっかけに、社会は大きく変わった。リアルの交流を制限するというその変化は、働き方や日常生活をはじめ、あらゆるところに大きな影響を与えた。そこで助けとなったのがデジタルである。コロナ禍のずっと以前から、デジタルを駆使し、リアルとリモートのハイブリッドの世界を創出してきたバイキューポの間下直晃会長に話を聞く。

### 変わらなかった日本に コロナが転機となり変化の兆し

伊藤 間下会長は学生時代に起業されてバイキューポを設立、ウェブソリューションの提供を開始されました。それから四半世紀が経ちましたが、上場も果たされ、事業も拡大しておられます。まずは御社の現在の事業内容からお聞かせいただけますでしょうか。

間下 われわれが掲げているミッションは『Eve

enな社会の実現』です。この「Eve n」には平等という意味がありますが、われわれが求めているのは「結果の平等」ではなく「機会の平等」です。「東京にいないから仕事がない」とか「子どもが生まれたから仕事が続けられない」とか「介護が始まったから仕事が続けられない」とか「地方にいるから教育がない」とか「地方にいるから医療がない」とか。こういうことは国をまたぐと、もっとたくさんあるわけです。こういったところをテクノロジーで変えていくというのが、『Eve nな社会の実現』です。

これに関連するプロダクトとして、今は大きく分けると3つあります。一つは映像を使ってさまざまな事業のリモート化のお手伝いをするビジネスです。Web会議もその一つですし、ヨガ教室とかいろいろなビジネスのリモート化です。もう一つは、オンラインのイベントのビジネスです。昨年も7500回ぐらい、さまざまなイベントを運営しました。社内には大きなスタジオがあり、そこをフル稼働させて大規模なイベントを月に1000回ぐらいやっています。それが今一番伸びていて大きくなっている事業「イベントDX」